

科目区分	専門基礎	授業科目	日常生活援助技術Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるための環境調整、活動と休息に関する看護技術を習得する。 目標: 1 環境調整の援助に必要な知識と技術を習得する。 2 活動・休息の援助に必要な知識と技術を習得する。 3 体位保持に必要な知識と技術を習得する。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 環境調整技術	9	1 環境調整技術の基礎知識 1) 環境調整の目的 2) 療養生活の環境 3) 病室の環境のアセスメントと調整 2 環境調整技術の実際 ※1 1) ベッド周囲の環境整備 2) 病床を整える	
2 活動・休息援助技術	17	1 ボディメカニクス 1) 姿勢と動作 2) 看護における力学の応用 2 活動に関する基礎知識 1) 活動の意義 2) 体位 3 移動の援助 ※2 1) 体位変換 2) 移動 3) 移送 4 睡眠・休息の基礎知識 1) 睡眠・休息の意義 2) 睡眠の種類 3) 睡眠制御のメカニズム 4) 睡眠障害の種類と要因 5 睡眠・休息の援助 1) 環境調整 2) 睡眠習慣の調整 3) リラクゼーション	
3 安楽確保の技術	3	1 体位保持の実際 1) 体位保持の目的 2) 安楽に体位を保持する方法※3	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、技術試験※4、レポート、参加状況・態度等	
テキスト		医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版	
参考資料			

履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備 考	※1、2、3は演習を行う。 単元1 環境調整技術の演習では、環境整備・ベッドメイキング・リネン交換を実施する。 単元2 活動・休息援助技術の演習では、体位変換、移乗介助、歩行・移動介助、車いす・ストレッチャーでの移送を実施する。 単元3 安楽保持の技術では、安楽な体位の保持を学ぶ。 ※4技術試験は、車いすへの移乗介助を実施する。

科目区分	専門分野 I	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるために必要な食事・排泄に関する看護技術を習得する。 目標: 1 食事の援助に必要な知識と技術を習得できる。 2 排泄の援助に必要な知識と技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 食事の援助技術	14	1 食事の基礎知識 1) 食事の意義 2) 食事の援助に必要なアセスメント (1) 栄養状態 (2) 摂食における姿勢・動作 (3) 咀嚼・嚥下機能 (4) 食欲 3) 食事の種類と形態 4) 食事の援助 (1) 食事援助の基礎知識 (2) 食事援助の実際 ※1 2 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 (1) 中心静脈カテーテルの管理	
2 排泄の援助技術	15	1 排泄援助の基礎知識 1) 排泄の生理的・心理的・社会的意義 2) 排泄機能とメカニズム 3) 排泄行動 4) 排泄に異常のある患者の初期把握 2 排泄援助の実際 尿器・便器の使用と導尿・浣腸 ※2	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、レポート、参加状況・態度等	
テキスト		医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版	
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。	
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備 考		※1、2は演習 単元1 食事の援助技術の演習では、食事介助・経鼻胃チューブの挿入・経管栄養法による流動食の注入を行う。 単元2 排泄の援助技術の演習では、尿器・便器の使用と導尿・浣腸を行う。	

科目区分	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(45時間)	開講年次	1年次
目的: 対象の日常生活を整えるために必要な衣生活・清潔に関する看護技術を習得する。 目標: 1 衣生活の援助に必要な知識と技術を習得できる。 2 清潔の援助に必要な知識と技術を習得できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 衣生活の技術	6	1 衣生活の基礎知識 1) 衣服を用いることの生理的・心理的・社会的意義 2) 被服気候 3) 衣類の着脱 2 寝衣交換の実際 ※1	
2 清潔の援助技術	16	1 清潔援助の基礎知識 1) 清潔の生理的・心理的・社会的意義 2) 皮膚・粘膜の構造と機能 3) 清潔援助の効果 2 清潔援助の実際 ※2 1) 整容 2) 口腔ケア 3) 手浴 4) 足浴とフットケア 5) 洗髪	
	22	2 清潔援助の実際 ※2 1) 入浴・特殊浴槽・シャワー浴における介助 2) 全身清拭(陰部洗浄を除く) 3) 陰部洗浄とオムツ交換 4) 全身清拭	
	1	試験	
評価方法		筆記試験、技術試験※3、レポート、参加状況・態度等	
テキスト		医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版	
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。	
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備 考		※1、2 は演習を行う。 清潔援助技術の演習では、全身清拭・洗髪・陰部洗浄とオムツ交換・足浴・口腔ケア、全身清拭・洗髪・陰部洗浄とオムツ交換を行う。 ※3技術試験は、清拭と寝衣交換を実施する。	